暮らしの学び舎Salmatt企画　暮らしから家庭科を問い直す学びの場

家庭科で育つ子どもと私のWell-being
羊毛フェルトで教材づくり体験

2026 0621

鈴 木 明 子
suzuaki@hiroshima-u.ac.jp

広 島 大 学

暮らしの学び舎Salmatt

広島大学

暮らしの学び舎
Salmatt

暮らしの学び舎Salmatt企画　ー暮らしから家庭科を問い直す学びの場ー

家庭科で育つ 子どもと私のWell-being

家庭科教育に関わる研究者・教育者が集い，
対話と教材づくりの実践を通して
家庭科の可能性と課題をともに探ります。

暮らしの学び舎Salmattは広島大学名誉教授の鈴木明子が代表を務め，東広島市を拠点に活動している家庭科教育のためのボランティア団体です。家政教育実践，研究に関わる協働，授業等にも役立つ情報を共有します。2026年度は①ゲストティーチャーによる講演，②テーマを設けた自由なカタリバ，③家庭科教材，題材開発につながる体験活動の3つの場を用意したいと思います。まずは1か月に一回のペースで，下記の通り6か月の計画を立てましたので，ご案内します。ご関心の回がございましたら，HPより各回の1週間前までに申込をおねがいいたします。

オンライン
参加無料

講演　カタリバ　体験活動

第１回	2026年4月25日（土）10:00～12:00 オリエンテーション 「新生家庭科に向けて」 鈴木明子（広島大学名誉教授）	オンライン
第２回	2026年5月30日（土）10:00～12:00 カタリバ「家庭科の今，私の課題」	オンライン
第３回	2026年6月21日（日）10:00～12:00 羊毛フェルトで教材づくり体験	東広島市の 暮らしの学び舎 Salmattにて対面開催 別途申込が必要 【先着10名】
第４回	2026年7月18日（土）10:00～12:00 「今家庭科の先生方へ」 工藤由貴子先生（東京家政学院大学特任教授）	オンライン
第５回	2026年8月22日（土）10:00～12:00 カタリバ「家庭科教育のこれから」	オンライン
第６回	2026年9月20日（日）10:00～12:00 染色で教材づくり体験	東広島市の 暮らしの学び舎 Salmattにて対面開催 別途申込が必要 【先着10名】

お申し込みはこちらから

ご関心の回がございましたら，
下記HPより申込をお願いいたします
各回の詳細はメールでお知らせします

https://home.hiroshima-u.ac.jp/~suzuaki/salmatt/

第１回20260425(土)10：00-12:00　活動報告

広島大学

第1回オリエンテーション「新生家庭科に向けて」
子どもの成長における家庭科教育の大切さ，家政教育と我々の生活のWell-beingとのつながりを共有できる皆様と貴重な時間を過ごしました。

第1回は，鈴木が主催者としてオリエンテーションをかねて家庭科教育の現状と課題について話し，その後，参加者全員で自己紹介も含み，各自の課題や関心事を共有しました。

第2回20260530(土)10：00-12:00　活動報告

広島大学

第２回カタリバ「家庭科の今，私の課題」

第1回と同様に，約20名の方々の参加がありました。第1回の振り返りを行った後，参加者全員が家庭科教育の現状と課題について自分の思いを語りました。

学習指導要領の改訂に伴う家庭科の学習内容の構造化の課題や，理論と実践のギャップ，そして教員同士のネットワーク構築の重要性が具体的な意見とともに共有されました。

第2回カタリバで共有された話題

- 家庭科教育における校種連携及び他教科理解の必要性
- 家庭科学習指導方法
- 家庭科学習指導要領議論
- 中国と日本の比較
- 小から中学校の移行課題と生活経験の不足
- 学習指導要領５領域議論へのさらなる意見
- 家庭科教育の題材・単元議論への意見
- 家庭科教育の家政学から捉えた実践と課題

暮らしの学び舎Salmatt企画　暮らしから家庭科を問い直す学びの場

家庭科で育つ子どもと私のWell-being
羊毛フェルトで教材づくり体験

2026 0621

鈴 木 明 子
suzuaki@hiroshima-u.ac.jp

広 島 大 学

プログラム

１．ごあいさつ（20分間）

・本講座を始めるにあたって
・参加者自己紹介
・豊栄ウール工房と羊毛について

２．羊毛フェルト作品づくり（70分間）

３．交流の時間・写真撮影（15分間）

４．アンケート回答の時間（15分間）

本講座を始めるにあたって・・・

布や糸を使ったものづくりを楽しんだことがありますか。それらを使って何かをつくり出す経験が思わぬ喜びや自分発見につながります。それらを使ってみたり，飾ってみたりすることによって，身の回りにある当たり前のものや風景が，あなたにとってこれまでと違って見えるかもしれません。

自分の手で・・・！

効率重視で面倒くさいことはできるだけ他者に任せてお金で解決する生活の中で，私たちは逆にゆとりをなくし，時間に追われる生活を強いられているように思います。

自分のセンスを信じて自分の手で布や糸などの素材を使って身の回りを豊かにするものをつくる時間をもってみませんか。

皆さんがその楽しさを実感し，自分の生活が輝く瞬間を経験した時，その喜びとともに，それらを他の人たちと共有したいと思うかもしれません。

タナパラ・スワローズの作品

バングラディシュの北西部，ガンジス川のほとりに，「タナパラ」という小さな村があります。この美しい村は，1971年の独立戦争で戦場となり，民兵として戦った多くの男性たちが虐殺されました。
貧困と絶望の中にある家族を救うため，「タナパラ・スワローズ」は誕生しました。手織りや手刺繍，縫製など，手仕事を活かした女性のための収入プロジェクトや，貧しい子どものための小学校の運営など，さまざまな地域活動を行っています。
CO2の排出量が少ない手仕事は，地球にやさしく，より多くの人たちに仕事の機会を提供します。

People Tree

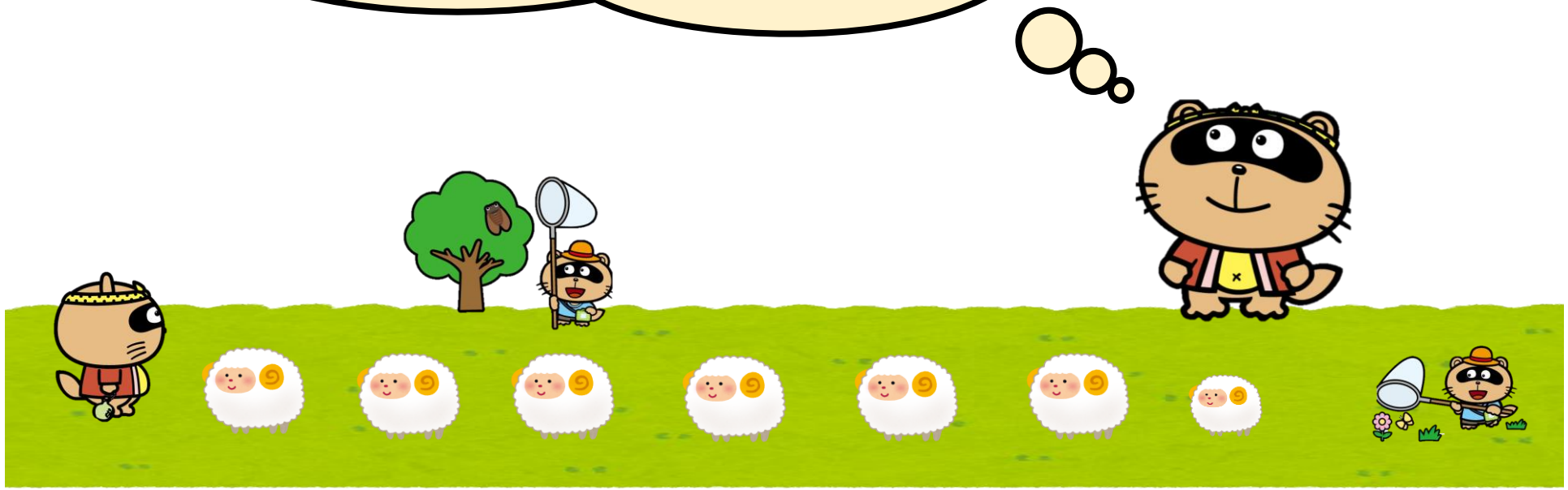
コースターに羊毛フェルト玉

羊毛フェルト作品（のん太の家庭科室）

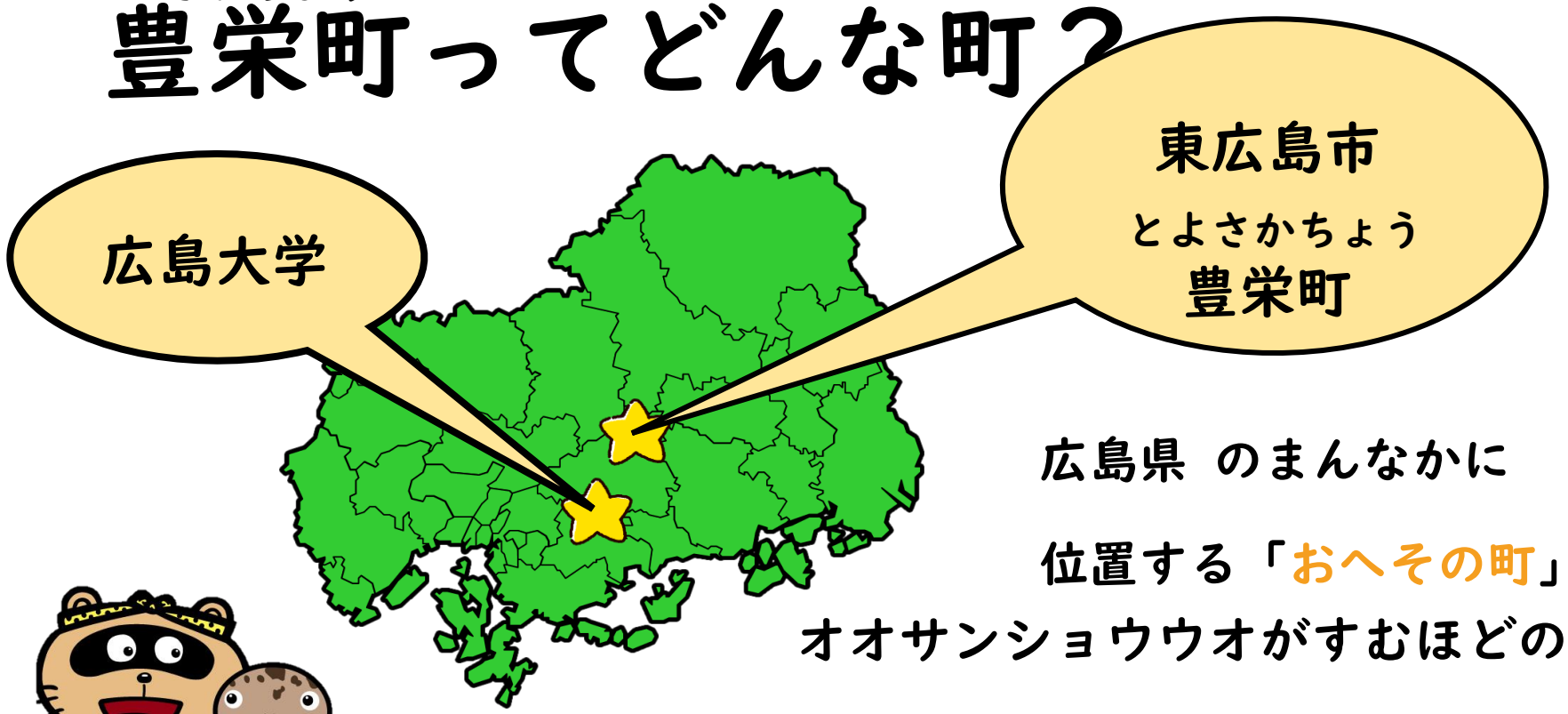
東広島市豊栄ウール工房のフェルト

すべて天然染色
コチニール以外は
草木染

豊栄（とよさか）ウール工房と羊毛について



豊栄町（とよさかちょう）ってどんな町？



広島県 のまんなかに

位置する「おへその町」。

オオサンショウウオがすむほどの

ゆたかな 自然環境 や美しい 田園風景 が

ひろがっています。

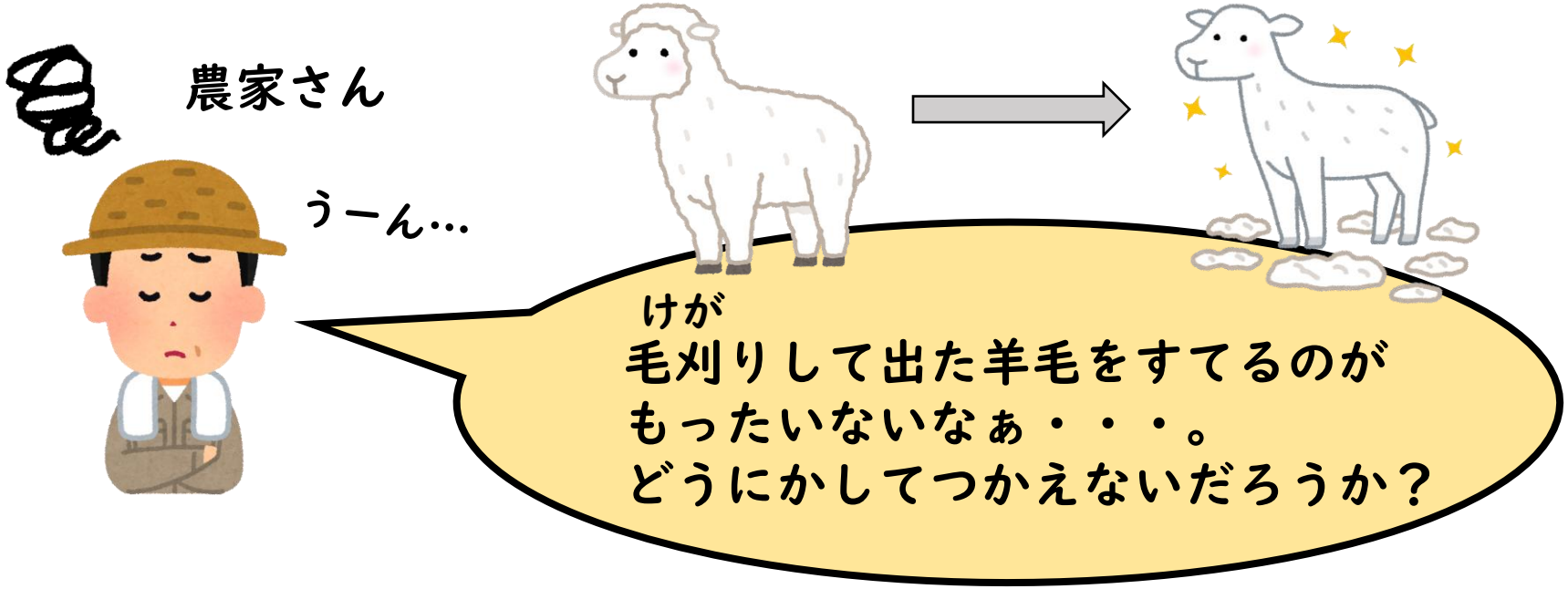
そんな豊栄町（とよさかちょう）では，

高齢化が進み，雑草が伸び放題に・・・

こまったわ…

のうか
農家さん

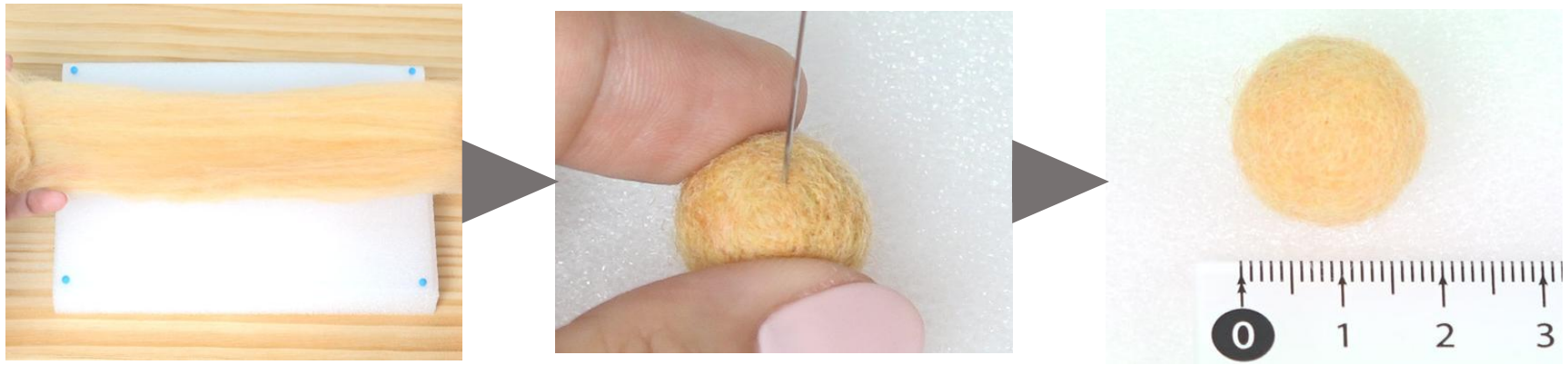
そうだ！
草をたべてくれる 羊 をかおう！



とよさかようもう
「豊栄羊毛」にへんしん！

手仕事好きなメンバーが工房に集い，ものづくりを楽しみながら
羊毛を用いた製品を生み出しています。

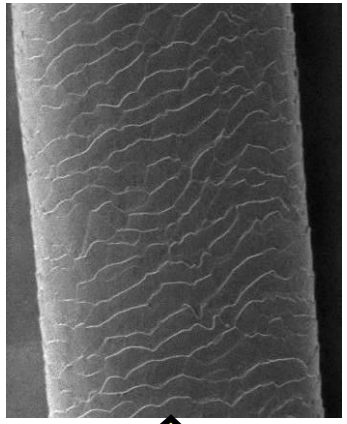
ところで・・・



羊毛（ようもう）は，なぜ針でさすと
丸くなるのでしょうか？

羊毛の特徴

＜人の髪の毛＞



「キューティクル」

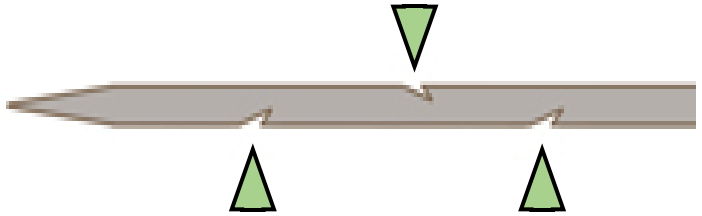
＜羊毛＞

「スケール」

表面 がうろこ状

×

＜ニードル＞

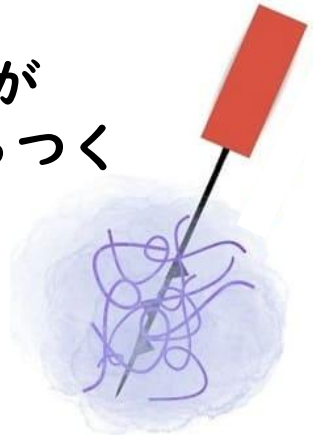


「バーブ」
というきりかえし

◎さすことで 繊維が
からみあい，くっつく

＝

フェルト化（か）



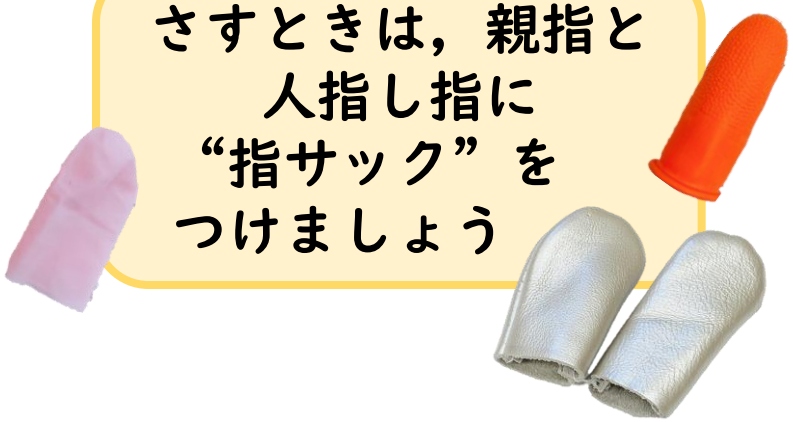
約束

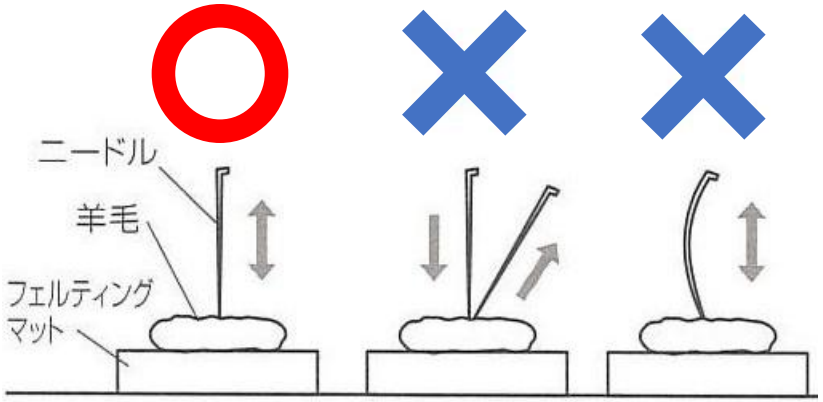
※安全に 注意しよう！

ニードルを使わないときは，キャップをしておきましょう

針はまっすぐさしてまっすぐぬきましょう（力をいれると折れてしまいます）

さすときは，親指と人指し指に“指サック”をつけましょう





持続可能な衣生活をつくるために

- 人を取り巻く環境の中で最も身近な存在である布は，家庭科で扱う代表的な教材の一つです。それは，私たちの身体や生活を快適かつ安全に守るとともに，見たり触れたりすることによって，ワクワクしたり心地よさや安心感を与えてくれたりするものです。
- 現在は簡単に安価に購入できる布や布製品ですが，それらが私たちの手元に届くまでの，多くの人の思いや研究開発や生産プロセスを考えてみることも興味深いことです。そこでは，まず，過剰生産に伴う環境問題や，厳しい労働環境に置かれた他国の人々の人権に関わる現代的課題が思い浮かびます。さらに歴史をさかのぼると，人が生活し，人としての尊厳を守るために行ってきた素朴なものづくりに端を発し，その技術を継承し創造してきた経緯に気づきます。そのような科学と文化の発展の中で，現代に生きる者として，先人が創り上げた伝統文化としての布の存在に恩恵を被っていることに感謝と畏敬の念を持たざるをえません。そして，持続可能な衣生活，衣生活文化を継承する消費者としての責任にも思い至ります。

- 日本には多くの伝統的な織物があります。どの織物にも地域の自然や特徴を生かして，人から人へ丁寧に受け継がれた技術があります。それは，人が厳しい自然環境の中で生きるために，また社会的経済的に自立した生活を保障するために必要であったと言えるでしょう。一方で労働として強いられた作業であっても，一つ一つの工程に求められる技能を丁寧に行い，それによって到達する価値ある完成品との出会いに心躍らせ，ささやかな自己成長の楽しみを感じてきた一人一人の思いが，その伝統文化や技術の継承につながったことは間違いないと思われます。
- 学校教育の中で，このような伝統文化継承の価値を学ぶ機会は少なくありません。ただ，家庭科で，自分の手で道具を使うことを通して，一つ一つの動作や工程に含まれる意味を見出すこと，そして自律的な動作の積み重ねによって自分だけのものをつくり出す喜びと達成感を体感できることは，認識面での学びにとどまらない身体感覚を伴った学びにつながり，独自の深い学びを保障しています。それは持続可能な生活をつくる大切さを学ぶ基盤となります。

- このような活動は，学校外活動としても盛んに行われるようになってきました。しかしながら，その体験の意味や大切さを客観的に捉えて，子供たち自身の文化創造の道筋をつくっていくのは学校教育の役目だと思います。先生方が子供たちとともに身近な布や伝統文化としての布に触れ，その継承に携わっている方々の思いに耳を傾け，未来への展望を持って，家庭科の教材研究を進めることが求められています。現代生活では不要になったと感じる技能や技術を，学びや成長を促す資源として見つめ直し，生活の豊かさを改めて多様な観点から再考することが，子供の成長にとって意味があると，大人が気づく必要があるでしょう。子供たちのドキドキするような思いを大切にして，もっとこんなものが作ってみたいと思うような授業にするために，先生方が伝統文化としての布に出会い，それを教材として利用する楽しさを実感してみることをお勧めします。

東京書籍監修　冊子「家庭科の学習を生かして持続可能な社会へ　衣生活編」より

アンケート

左QRコードからよろしくお願いします。